

事業番号	事務事業名	子どものエンパワメント育成事業費	所管課名	生涯学習課	令和 3 年度課長名	黒瀬 豊
06040	政策名	1	こころあたたかい福祉の里づくり	係名	担当者・シート作成者	池田 亜加理
	施策名	17	人権尊重と人権意識の高揚	根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	エンパワメントとは選択する権利・権限を与えることであり、保・幼・小中学生及び保護者を対象にCAP津山支部と連携して、暴力・虐待・薬物乱用の防止を目的としたトレーニングや講演会を実施する。各学校などに実施希望調査。実施校、実施教室の確定。日程調査、講師選定及び委託手続き。実施報告書の取りまとめ。講師謝金・委託金の支払い。 令和2年度は講演の計画を行っていたが、次年度へ繰り越すこととなった。	子どもが犯罪に巻き込まれる事件・事故の増加の背景から、県補助事業として開始された県補助事業終了後の平成21年度以降も町単独事業として継続実施している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 保育園・幼稚園	ア 園児数	人	見込 実績	501 501	450 458	450 441	446	450
イ 小学校	イ 児童数	人	見込 実績	659 659	655 659	655 658	624	620
ウ 中学校	ウ 生徒数	人	見込 実績	313 313	307 307	305 313	343	340

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 子どもと保護者によりよく成長する態度を形成してもらう	ア 参加人数	人	目標 実績 達成率	100 141 141.0%	0 0 #DIV/0!	100 0 0.0%	100	100
イ 子どもと保護者によりよく成長する態度を形成してもらう	イ 参加人数	人	目標 実績 達成率	75 81 108.0%	0 0 #DIV/0!	75 0 0.0%	75	100
ウ 薬物、たばこの危険性に関して知識を身につける	ウ 参加人数	人	目標 実績 達成率	103 103 100.0%	0 0 #DIV/0!	100 209 209.0%	100	100

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア CAPプログラム	ア CAPプログラム実施回数	回	目標 実績 達成率	4 6 150.0%	0 0 #DIV/0!	4 0 0.0%	4	4
イ 薬物乱用防止・たばこの話講演会	イ 講演会実施回数	回	目標 実績 達成率	2 1 50.0%	2 0 0.0%	2 2 100.0%	2	2
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 10		項 06		目 01		大事業 中事業 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		教育費		社会教育費		社会教育総務費		20 01 子どものエンパワメント育成事業費					
1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	06040	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	210	100	40	323	323	-60	一般財源	155	0	40	323	323	40	
合計	210	100	40	323	323	-60	合計(A)	155	0	40	323	323	40	
財源名称			従事正職員人数				1	1	1	1	1			
			延べ業務事務時間				15	5	5	5	5			
			人件費計(千円)(B)				53	17	17	17	17	0		
	最終予算額		40 千円	予算執行率		100.0%	トータルコスト(A+B)		208	17	57	340	340	40
主な 支出事業内容 (予 算)	報償金		290 千円		主な 支出事業内容 (決 算)		報償金		170 千円					
	消耗品費		20 千円				消耗品費		0 千円					
	通信運搬費		3 千円				通信運搬費		0 千円					

事業番号	06040	事務事業名	子どものエンパワーメント育成事業費	所管課名	生涯学習課
------	-------	-------	-------------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
子どもが犯罪に巻き込まれる事件・事故も増加しており、本町においても不審者情報も寄せられている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
県からの補助終了後も町費予算で実施しており、幼・保・小については「暴力防止教育」を、中学生については「禁煙・薬物防止教育」を実施している。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
中学校からは主に生徒からの感想を得ているが、心に残る講演であった旨の報告がなされている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	幼・保・小中学校への人権教育啓蒙活動として必要な事業である。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せるとはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	幼・保・小中学校への人権教育啓蒙活動として行政主導で行うことが望ましい。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	町内 全幼保小中学校で実施することが望ましい。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	事業の重要性について共通認識が形成されていないので事業説明が必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	他に類似事業はない。廃止すれば幼・保・小中学生及び保護者を対象とした暴力・虐待・薬物乱用防止教育が減少する。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	事業の重要性について説明を行い、事業実施を促す。学校・園での時間を確保し、3つの過程を導入したプログラムを行う必要がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	講師謝金の上限を最低限に設定しており、削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	兼務で事業を行っているため、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町内全 幼・保・小中学校での実施であるため、公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和3年度は中学校で禁煙教室を実施した。CAPつやまの講座について実施はなかった。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 3つのプログラム(保護者、生徒、教職員)を行えるよう、学校側へ理解を求めていく。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
学校教育課程への位置づけや学校側への事業実施の必要性を理解してもらうことが必要となる。																									